

先端モビリティセンター（テスト路併設）

自動運転技術などの開発・実証

株式会社デンソー(以下、デンソー)が自動運転技術の試作開発、実証を行う新拠点を開設します。羽田エリアは、国家戦略特区として自動運転などの公道実証のサンドボックス制度*4 導入の検討が進められています。また、周辺には、高度な技術を持つ大田区のものづくり企業が多く、集結しています。デンソーは、今後、特区制度の活用や周辺のものづくり企業とも連携することで、スピーディに試作開発、実証を行い、自動運転技術の実現を加速させます。

*4 サンドボックス制度:参加者や期間を限定することなどにより、既存の規制にとらわれることなく新しい技術などの実証を行うことができる環境を整備することで、迅速な実証及び規制改革につながるデータの収集を可能とする制度。

DENSO
Crafting the Core



テスト路



車両整備場 1



車両整備場 2



車両整備場 3

先端医療研究センター

臨床機能備えた医工連携／長期滞在可能

先端医療研究センターに学校法人東邦大学(以下、東邦大学)が医療・研究施設、東日本旅客鉄道株式会社(以下、JR 東日本)が滞在施設を開設します。

東邦大学は既に羽田空港内に 2 つのクリニックを運営しています。また、JR 東日本は東京圏鉄道ネットワークを活用し多方面から羽田空港へのダイレクトアクセスを実現する「羽田空港アクセス線(仮称)」の計画を推進しています。

医療・研究施設では、臨床機能を持つ強みを活かし、医療現場から発信されるマーケットイン型医工連携を推進し、世界最高水準の医療技術を地域産業と協働開発を推進します。また、先端医療の提供とともに、関連技術・産業の海外展開を志向しています。滞在施設では医療技術者、患者・家族の長期滞在も可能となります。2022 年の開業を予定しており、詳細については後日発表いたします。



東邦大学



研究開発拠点

「先端モビリティ」「健康医療」「ロボティクス」などの未来の暮らしをつくる企業が集積

■ラボ、大規模オフィス ヒト・モノ・コトが交わるビジネスの最前線

羽田空港の近接という好立地を活かし、様々な分野のヒト・モノ・コトが交わることで新ビジネスが生まれる、世界をリードするビジネスエリアです。

ここでは、イノベーションコリドーや ARTIST VILLAGE のほか、多摩川沿いの緑地などの周辺エリアを活かして開放的かつ刺激的な羽田ならではの新しいワークスタイルを提供します。特に、2022年に開業する大規模オフィスは貸室面積 1フロア 5,600 m²(1,700 坪)を超える日本最大級のメガプレートであり、自由な発想を手助けする開放的な空間です。



新しいワークスタイル

■区施策活用スペース 既存産業の発展や新産業創出を目指す一大拠点

産業集積地域である大田区は、ものづくりのみならず、大田区を核として多様な産業間の交流・連携などの国内における拠点として発展してきました。こうした地域特性を最大限に活かすために、区では HICity 内にスペースを確保して、既存産業発展や新産業の創出など、区内及び国内経済の活性化に大きく貢献するためのサービスを提供します。

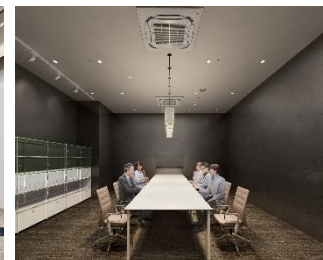
このスペースで、区内に集積する日本屈指のものづくり技術と羽田空港の有する国内外へのゲートウェイ機能を最大限に活用した Open Innovation Hub としての役割を果たし、世界中の新しい発想・知識・技術をカタチにし、志をつなげ、未来を切り開く事業を育みます。



事務室



ミーティングルーム



応接室

会議研修センター

複数日程の国際学会や展示会も視野に入れたカンファレンスルーム・滞在施設

会議や研修での利用をはじめ、複数日程にわたる国際学会や展示会なども視野に入れたカンファレンスルーム・滞在施設からなる会議研修センターです。

■**コングレスクエア羽田** 最大 670 名規模の多機能ホールをはじめとするカンファレンスルーム

株式会社コングレ(以下、コングレ)が、最大 670 名規模の多機能ホールをはじめ、少人数から 280 名まで収容可能な多様なカンファレンスルームを開設します。

コングレは、2016 年の伊勢志摩サミットや 2017 年のアジア開発銀行年次総会をはじめ、業界随一の国際会議・学術会議の実績を保有しています。

多様なカンファレンスルームはいずれも、映像・音響・照明設備を備え、展示会、会議など幅広い用途に対応します。また、同建物内の「京急 EX イン」との連携により、宿泊を伴う集合研修や学術集会などにも適しております。羽田空港に近接する立地性を活かし、日本全国はもとより海外からの会議開催ニーズに対応します。施設詳細につきましては、下記コングレスクエア羽田 HP をご覧ください。

<https://congres-square.jp/haneda/>

株式会社 **コングレ**
Congrès Square



ホール



ロビー



ラウンジ(パーティ利用)



控室

■**京急 EX イン 羽田イノベーションシティ** 客室数 259 室、京急 EX イン初の入浴場を導入

京浜急行電鉄株式会社(以下、京急)が「京急 EX イン」を開設します。客室は 259 室(セミダブル 217 室、ダブル 18 室、ツイン・トリプル・ユニバーサル計 24 室)、ホテル内には、ニーズの高い入浴場を、京急 EX インとして初導入し、宿泊者向けに羽田空港への送迎バスを運行します。

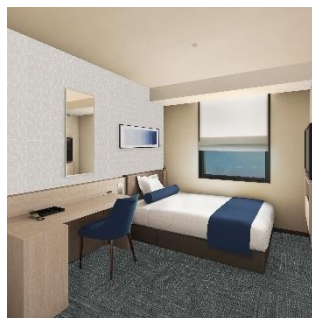
羽田空港利用者だけでなく、増加する訪日外国人など、多様化する宿泊ニーズに応えます。

KEIKYU
京急電鉄

EX
KEIKYU EX INN



ホテルロビー



客室



入浴場

ライブホール「Zepp Haneda(TOKYO)」

3,000人規模のイベントに対応。音楽イベントをはじめ、展示会などの開催も可能

株式会社 Zepp ホールネットワーク(以下、Zepp)が、国内最大級の約3,000人(スタンディング時)収容可能なライブホール「Zepp Haneda(TOKYO)」を開設します。

Zeppは、HiCityを含めた国内5都市(札幌・東京・名古屋・大阪・福岡)でライブホールを7カ所運営しており、今夏には台湾、2021年春にはマレーシアへの出店を控えるなど、アジア展開も積極的に行っています。

HiCityでは、音楽イベントだけでなく、演劇・上映会・eスポーツ・展示会・企業イベントなどの様々な催事のニーズに対応します。



体験型商業施設、アート&テクノロジーセンター ほか

文化体験

■体験型商業施設

日本空港ビルデング株式会社(以下、日本空港ビルデング)が、株式会社羽田未来総合研究所及び株式会社ワントゥーテンの協力により、デジタルアート×没入型の演出×伝統工芸×食など、様々なメディアを融合し、日本文化を世界に向けてプレゼンテーションする施設を開設します。

日本空港ビルデングは、羽田空港のターミナルを管理・運営しています。HiCityでは、体験型商業施設を展開することで、世界のハブ空港である羽田空港の国際競争力向上に寄与します。



1→10

■アート&テクノロジーセンター 新たな文化育成・創造への挑戦

日本の芸術文化の発信・創造に向けた拠点を開設します。アートと最新テクノロジーを融合した新しい文化の発信を目指します。2022年の開業を予定しており、詳細については後日発表いたします。

■ **文化体験商業店舗** 訪日外国人を含む来訪者、周辺住民、就業者まで様々なニーズに対応

飲食施設を中心に、日本発の食文化、サブカルチャーなどをグローバルに発信する店舗を導入、HiCity ならではの様々な体験機会を提供します。

歩行者専用デッキ(2階)「イノベーションコリドー」沿いには、多くの店舗が軒を連ね、訪日外国人を含む来訪者、周辺住民、就業者まで様々なニーズに対応します。店舗の詳細は後日発表いたします。



■ **足湯スカイデッキ** 羽田空港を臨む絶好の撮影スポットである、無料の足湯施設

体験型商業施設の屋上に、無料で利用可能な足湯施設を開設します。

日本を代表する温泉文化の一端を感じられるとともに、羽田空港を望むことができ、飛行機を撮影する絶景ポイントです。

また、イベント・撮影にも利用可能です。



足湯スカイデッキ(昼)



足湯スカイデッキ(夜)

■ **ARTIST VILLAGE** アートあふれる芝生広場

敷地南側に、アート遊具が配置された芝生広場「ARTIST VILLAGE(アーティストビレッジ)」を開設します。空港近接ならではの空や風といった自然を感じながら、アートと過ごすことができる空間です。音楽イベントやスポーツイベントにも活用可能です。詳細は後日発表いたします。



交流・連携

人々の偶発的な交流・連携を誘発

「インスピレーションを求める人々にイノベーションの翼を提供する」という考えのもと、多種多様な交流・連携を創出、誘発する仕掛けを企画・展開します。

特に、HiCity は、歩車分離を図るべく、歩行者主要動線は 2 階のデッキ部分「イノベーションコリドー」に、自動車動線は 1 階に集約しています。約 200m に及ぶイノベーションコリドーをはじめ、HiCity 内各所の多様な性格を有するスペースを活用し、人々の交流・連携を創出、誘発するべく、様々なイベントを誘致・開催していきます。

<交流・連携創出拠点>

Innovation Salon



Innovation Salon

ベンチャー企業から大手企業まで幅広い就業者・研究者と、クリエイターやアーティストなど、国内外を問わず幅広く活動する来訪者が、「集う」、「語らう」、「手を取り合う」ための交流・連携創出拠点

<にぎわいの歩行者専用デッキ(2階)>

イノベーションコリドー

- ・約 200m に及ぶ HiCity の各建物を結ぶ来訪者のメイン動線
- ・様々なイベント・撮影にも利用可能

<ターミナルを臨む絶好の撮影スポット>

足湯スカイデッキ

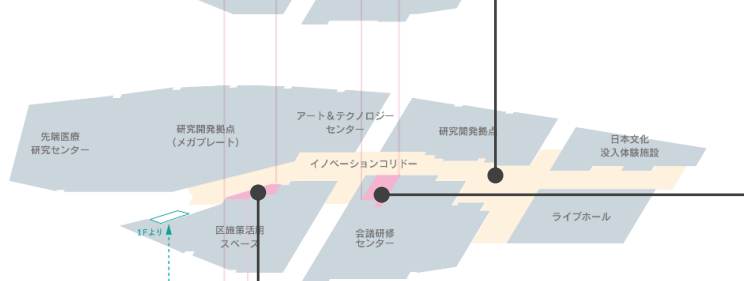
- ・日本の温泉文化の一端を感じられるとともに、羽田空港ターミナルを臨むことができ、飛行機を撮影する絶好のポイント
- ・様々なイベント・撮影にも利用可能



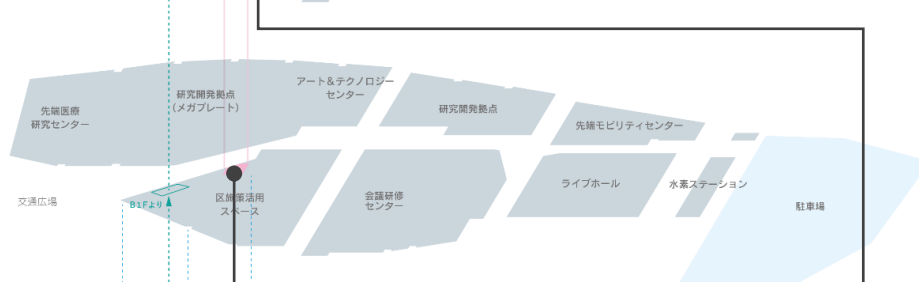
3F



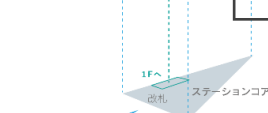
2F



1F



B1F



<偶発的な出会いを創出>

SALON

- ・カフェとしても、ミーティングの場としても使える多目的スペース
- ・交流・連携を創出、誘発するイベント・ワークショップなどを誘致・開催



<インスピレーションとの遭遇>

GALLERY

- ・「イノベーションコリドー」に面した展示利用に最適な空間であり、クリエイターやアーティストによる先端技術を活用した作品の展示などを企画



<ショートミーティングが生み出す意外性>

STAND

- ・「ステーションコア」(B1F)と交通広場(1F)の至近にあり、移動直前までのショートミーティングが可能



■交流・連携創出拠点「Innovation Salon」(3階)

Innovation Salon では、ビジネス創出支援に重きを置き、屋外型交流・連携拠点である「FORUM」を囲むように機能を配置しています。方形広場「FORUM」は、ビジネスフォーラムやビジネスマッチングイベントに適しています。また、その周辺の「LOUNGE」、「ROOM」は、コワーキングスペースとしての利用の他、「FORUM」でのイベントとの連動で、リハーサル・控室などとしての活用も可能な多目的な空間です。



さらに、ビジネス創出支援の推進役として、地域金融機関である城南信用金庫とさわやか信用金庫が Innovation Salon 内に拠点を構えます。城南信用金庫は全国の信用金庫と連携して展開するビジネスマッチングサイト「よい仕事おこしネットワーク」の実拠点に、中小企業の課題解決に取り組む「城南なんでも相談プラザ」を併設します。さわやか信用金庫は、先端産業企業と地域企業(都心エリア・城南エリア・郊外エリア)とのビジネスマッチングによるビジネス創生・交流拠点を展開します。

<ビジネス創出支援の拠点>

LOUNGE

- ・開放型のコワーキングスペース
- ・個人からグループ利用まで多様なニーズに対応可能であり、幅広い人々の社交の場
- ・ミニイベント・展示利用から、「FORUM」とのイベント連動時にはリハーサル・控室などといった活用も可能な、多目的な空間

ROOM

- ・集中したプレストに適した予約制会議室
- ・短期プロジェクトルームとしての利用も可能



<屋外型交流・連携拠点>

FORUM

- ・ビジネスフォーラムやビジネスマッチングイベントとしても活用可能な屋外型の方形広場
- ・印象的な大屋根のもと、空港近接ならではの自然を感じながら、多種多様かつ異なるプレイヤーが集結するビジネス創造の拠点



<開放的なデッキ空間で、自由な発想>

DECK

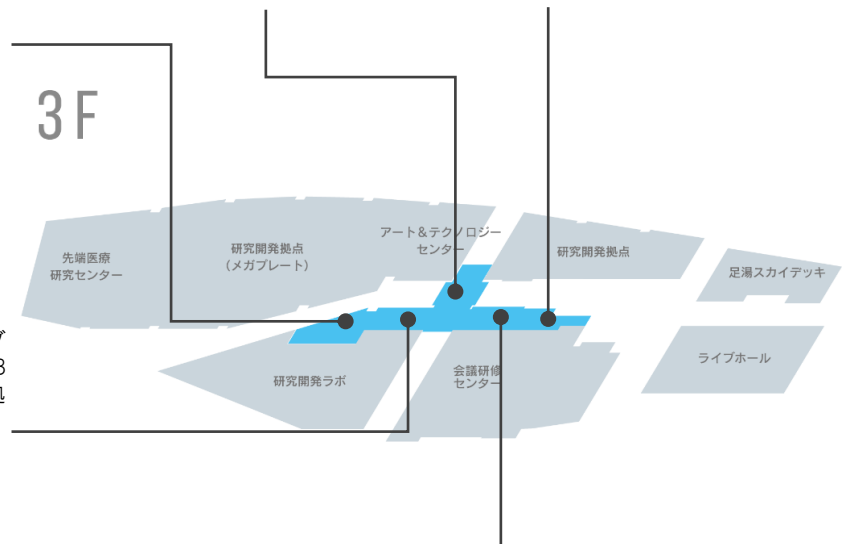
- ・インベーションコルダの雰囲気を感じられる屋外型のウッドデッキ空間であり、イベント連動にも最適



<全国信用金庫の連携による地方創生拠点>

城南信用金庫

- ・全国の信用金庫が連携し、ビジネスマッチングを通じて、中小企業や地域を豊かにする WEB サービス「よい仕事おこしネットワーク」の実拠点
- ・「城南なんでも相談プラザ」を併設



<ビジネスマッチング拠点>

さわやか信用金庫

- ・先端産業企業と地域企業(都心エリア・城南エリア・郊外エリア)とのビジネスマッチングによるビジネス創生・交流拠点を展開



■羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会

内閣府、国土交通省、経済産業省及び総務省は、Society 5.0*5の実現に向け、スマートシティの取り組みを官民連携で加速するため、各種取り組みを進めています。

国土交通省スマートシティモデル事業(2019年度)の「重点事業化促進プロジェクト」に選定されており、2020年1月29日付けで「羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会」を設立しました。

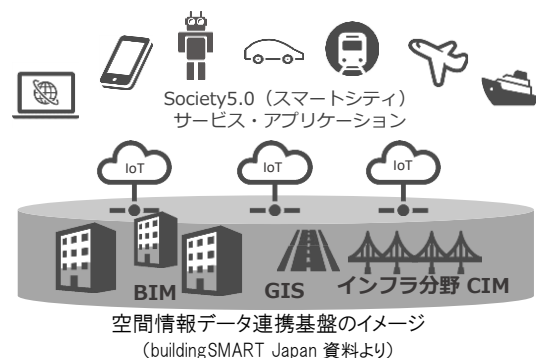
今後、協議会として、大田区における社会的課題(交通弱者への移動支援、少子高齢化の進展・担い手不足、観光地域活性)に対する創造的解決を図るテストベッドとなるスマートシティを形成すべく、データ利活用のプラットフォームとなる空間情報(BIM*6など)データ連携基盤を構築・活用し、4つのテーマ(スマートモビリティ、スマートヘルスケア、スマートロボティクス、スマートツーリズム)を中心にスマートシティの実現に向けた実証や実装など、先見的な取り組みを展開してまいります。



スマートシティプロジェクト概要

*5 Society5.0(超スマート社会):サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。(参照:“Society5.0-科学技術政策”内閣府)

*6 BIM(Building Information Modeling):主に三次元の建物形状情報に加え、室などの名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げなど、建物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築するシステム。



【事例①(スマートモビリティ)】自律走行バス 日本初:スマートシティモデル事業における自律走行バスの恒常的導入

スマートモビリティの取り組みの中で、交通弱者への移動手段支援やバスなどのドライバー不足といった社会課題に 대응べく、HiCity 内に、国内初となるスマートシティにおける自律走行バスの恒常的導入を SBドライブ株式会社とともに実現いたします。

導入にあたって、交通事業者が運行管理を実施することで、課題の把握、ノウハウの蓄積を図り、将来的には、大田区ひいては日本全国の交通弱者の移動支援や人手不足の解決に向け、貢献したいと考えております。

また、自律走行バスの他に、様々な移動ニーズに合わせたモビリティ(グリーンスローモビリティ、パーソナルモビリティなど)を施設内で実装させる予定です。



自律走行バス

【事例②(スマートロボティクス)】都市型アバターインフラ 日本初:アバターを標準装備したスマートエアポートシティの実現

少子高齢化や観光地域活性化などの課題解決や、誰もが参画できる社会の実現に向けて、ANA ホールディングス株式会社が独自開発を行い、実証を進めるアバターロボット「newme(ニューミー)」を導入します。オフィスや商業施設、公共施設などの、街のあらゆる場所に設置されたアバターにインターネット(avatar-in: <https://avatarin.com/>)から自由にアクセスし、遠隔からのコミュニケーションや作業が可能となる「都市型アバターインフラ」を構築します。

HiCity では、アバターによるショッピングやエンタテインメントなど、国内外から集客を図り観光促進につながるツーリズムの取り組みでの活用をはじめ、大田区の町工場の活性化を目的としたアバター技術見学、人手不足などの課題解決に向けたアバター警備サービスなど、スマートロボティクスの取り組みでの活用を予定しています。



newme(ニューミー)



利用シーン

※参考：周辺エリアマップ

⑤ソラムナード羽田緑地

- ・多摩川沿いの緑地
- ・周囲を一望できる「展望テラス」や「休憩施設」、四季を感じることできる「散策路」を整備

①羽田空港ターミナル

- ・2020年3月29日より1日約50便の国際便が増便
- ・増便に伴い、現在の国際線ターミナルに加え、第2ターミナルの一部においても国際線の運航が開始
- ・増便に伴い、ターミナル名称が「国際線ターミナル」から「第3ターミナル」に変更

※出典：羽田空港広報協議会「羽田国際線大增便！」特設サイトより(2020年1月現在)

②羽田エアポートガーデン

- ・羽田空港国際線ターミナル直結で、多様な宿泊機能、国際交流機能や都市観光に資する機能を整備
- ・2020年春開業

③キングスカイフロント

- ・約12万坪の開発エリアに、研究機関や世界的企業が立地

※出典：キングスカイフロントホームページより(2017年3月現在)

④(仮称)羽田連絡道路

- ・羽田空港地区と殿町地区との連携を強化し、一体的な成長戦略拠点の形成を支える重要なインフラ
- ・2020年度の開通目標

※出典：川崎市ホームページより(2019年8月現在)

周辺エリアマップ 1



周辺エリアマップ 2